

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会報」読者の皆様へお知らせ

2014年8月18日から連日13回にわたり、北海道新聞の夕刊紙面の、「私のなかの歴史」で、「ヒグマ研究45年」と言う題で、私(門崎允昭)が、私の「ヒグマについての考え、人と熊の共存策」等を口述、編集委員の「中尾 吉清」さんが取材文章化し、掲載されました。その第9回目、8月27日(水曜日)掲載を、ここに再録しますので、ぜひ、お読み下さい。

3 6版

2014年(平成26年)8月27

私のなかの 歴史

札幌の市街地へのクマ出没対策として2012年9月、南区川沿地区の北の沢川沿い約300坪の河畔林が伐採されました。

13年9月、南区真駒内柏丘で若い雄が駆除されたケースでは、このクマは豊平川の河畔林を伝って市街地に迷い込んだ、などというコメントも新聞で紹介されていました。しかし、河畔林伐採は、クマ対策として有効なのか。私には疑問があります。

札幌で騒動になる以前の03年11

動物学者

かどさき
門崎

まさあき
允昭さん



月、苫小牧市の市街地、港周辺などにクマが出没。依頼を受け、移動経路を調査しました。港周辺に

ヒグマ研究45年

⑨

母の方を振り返りながら去ってゆく、自立の時を迎えた若クマ

坂本龍二>
その時
大きな事
の出来、い
れ、いざこ

出没の対策

「いて当然の場所」啓発を

は河畔林などの樹木はない。水路を伝っていた、と推測しました。

立ち上がると2層になるクマだ

って四足歩行の時の目線の高さは1・2層くらい。高い木がなくても水路、堤防の内側なら、人目を意識せず歩けます。ですから河畔林の伐採は無意味。木を無意味に切り倒すのはよくありません。

札幌では、このような出没は今後も毎年起こるでしょう。しかし、それは、従来の「すみ分け」が崩れたことを意味しません。

数日間滞在しても、やがて自分

が本当に生きていける場所を求めて去っていきます。これら若クマは人を襲うことはありません。

若クマ以外の出没もあります。

農作物、果樹を食べることが目的だったり、樹林地から樹林地へと移る際に道路を横断して目撃された、というケースもあります。これらは年齢に関係ない出没です。

人家の近く、公園などで出没を防ぎたいのなら、有刺鉄線を自幅15センチ、高さ1・5層ほどに張るといい。

南区白川などの果樹地帯では収穫期に一時、電気柵を張り巡らすといいでしょう。

たまたま山の道路を横断したの

を目撃した程度なら対策は必要ないし、新聞・テレビのニュースにする意味もないですね。

藻岩山などの遊歩道を通行止めにする、など行政の対応は事なかれ主義だと思います。安易に閉鎖すべきじゃない。クマがいて当然な場所だから、出合うかもしれない。それに対して笛、ナタなど相應の準備をして、自己責任で自然を楽しめばいいのです。

観念的にクマの存在を許せない、恐ろしいという人がいます、そういう人に言いたいのです。実際に自然の中でふんや足跡を見たら、さらに恐怖がこみ上げるかもしれない。

しかし、同時に「すごいな！」って、感動が湧いてくるはずですよ。クマは、そうした人に感動を覚えさせずにおかないオーラを発散させている生き物です。

アフリカのライオンがすんでいる場所よりも、札幌の方が自然が豊かでは。そう思います。

札幌圏でヒグマによる人身事故は01年5月、定山溪で山菜採りの男性が襲われ亡くなった事件以降、一件もありません。クマの生息地と人の生活圏は画然と区別されているのです。

札幌の市民は、この大都市にクマも一緒にすめる自然を誇っているのではありませんか。行政は、そう啓発するのが一番大切なクマ対策だと私は考えています。

(聞き手・中尾吉清)